

令和3年度第1回「学ぶ土台づくり」研修会（入門編）

幼児理解の基礎知識

参考：幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年3月）

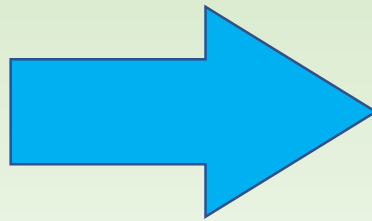
主催 宮城県教育委員会

1 幼児理解からの出発

■ 1 幼児理解からの出発

保育とは・・・一人一人の幼児が保育者や多くの幼児たちとの集団生活の中で、周囲の環境と主体的に関わり、試行錯誤しながら自分にとって必要な経験を得ることができるように援助すること

幼児を
理解すること
「保育の出発点」



一人一人の
幼児の発達を
着実に促す保育

2 一人一人に応じた教育

幼児の発達する姿

たとえ同年齢であってもそれぞれの幼児の生活経験や興味・関心などによって一人一人異なっている



それぞれの幼児の生活する姿から捉えるもの

- ・今、経験していることは何か
- ・今、必要な経験は何か

それに応じた援助

教育に求められるもの

一人一人を画一的に育てることではなく、**自分らしさを発揮し、心豊かに意欲をもって生きることのできる人**として育てること

一人一人の幼児が **よさを発揮しつつ**
育っていく過程を重視

3 一人一人の発達の特性

■ 3 一人一人の発達の特徴

- 幼児の発達の姿は大筋で見れば、どの幼児も共通した過程をたどると考えられる
- 幼児を指導する際に、保育者がその年齢の多くの幼児が示す発達の姿についてよく理解しておくことは、指導の仕方を大きく誤らないために必要

それぞれがかかけがえのない存在である幼児
に目を向けると…

発達の姿は必ずしも一様ではない

■ 3 一人一人の発達の特徴

- 幼児は、一人一人の**家庭環境**や**生活経験**も異なっている。
- 一人一人の**人やものへの関わり方**，**環境からの刺激の受け止め方**が異なってくる。

大胆で無秩序な
世界を好む幼児

秩序

秩序正しく
整っている世界
を好む幼児

大胆さ

■ 3 一人一人の発達の特性

- 幼児は**必要な環境を選んで**環境に関わり、発達するために**必要ないろいろな体験を得ていく力**をもっている。
- 幼児のしようとしている行動の中には、一見すると**好ましくないと思える**こともある。
- そのような行動でも、その幼児にとっては、必要で選ばれた行動であり、**その幼児の発達にとって大事**である。

保育者は…

- 幼児が自ら主体的に環境と関わり、**自分の世界を広げていく過程そのもの**を発達と捉える。
- 幼児一人一人の**発達の特徴**を理解し、その特性やその幼児が抱えている**発達の課題**に応じた指導をすることが大切。

4 発達の課題

発達課題とは

- 他の幼児との比較やある基準に照らして見いだされる課題のことではない
- 幼児一人一人の発達の姿を見つめることにより見いだされるそれぞれの課題

幼児一人一人の発達の特性と課題を把握し、その幼児らしさを損なわないように指導することが大切。

5 一人一人に応じるということ

■ 5 一人一人に応じるということ

幼児…一人一人が異なった発達の姿



幼児の発達に合わせて、一人一人に応じた指導を

ただし…

- ただ単にそれぞれの要求にこたえればよいというわけではない。
- 育みたい資質・能力を育むために、幼児一人一人の何に応じればよいのか考えたものでなければならない。

■ 5 一人一人に応じるということ

一人一人に
応じること

=

一人一人が**過ごしてきた生活を受け入れ**，それに応じること

幼児一人一人を**かけがえのない存在**と見る

- ・それぞれの行動
- ・それぞれの表現



独自性を大切にすること

令和3年度第1回「学ぶ土台づくり」研修会（入門編）

幼児理解の基礎知識

参考：幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年3月）

主催 宮城県教育委員会